

令和4年2月1日

敬愛短大附属幼稚園だより 2月号

2022年も大雪、火山の大噴火、オミクロン株の急激な拡大など話題も豊富ですが、あっという間に1ヵ月が過ぎ、もう2月となりました。房総半島の南の方では菜の花が咲き、外房のお花畑では春を迎えてストックやキンセンカ、ポピーなどの花を楽しんだり買い求めたり、少しずつですが観光に訪れる人々が出始めました。この時期になると、テレビでも房総の春をテーマにした番組が数多く放送されるようになり、まだ寒い日が続いていますが一気に心の中は春めいてきます。

幼稚園では、蠟梅の黄色い花からの甘い香りも盛りとなり、秋に植えたチューリップの球根からも芽が伸び始めてきています。また、今月は年中さんがジャガイモの植え付けをします。立派に育ってくれることを楽しみに「かがくのかだん」の中ではモンシロチョウの幼虫やテントウムシが活動を始めます。野草園に設置した「鳥のれすとらん」には数種類の鳥たちも訪れるようになってきました。

【非常時の安全は人の動きが重要】



幼稚園では不審者侵入に備えての訓練を1月に実施しました。2001年6月8日、大阪教育大学附属池田小では、不審者の侵入により8名の児童が亡くなり、15名が負傷するという無差別大量殺人という犯罪史上稀に見る悲惨な事件があり、社会に衝撃を与えました。

最近でも入学試験会場となった東京大学での殺傷事件のほか、病院内での放火殺人、列車内での不特定多数の殺害を目的とした事件が多数発生し、多くの方が犠牲となっています。

池田小の事件では、不審者とすれ違っていた先生が後日、「一声かければ良かった」と後悔しており、犯人も「門が開いていたから入った」と詫言する様子もなく答えています。

この事件を契機に、全国の学校では門が閉じられるようになります。本園でも、東門の門扉の高さを増やすほか、さすまたなどの防衛器具や110番非常通報装置の設置がされました。2022年度は110番非常通報装置を最新機器に交換します。

様々な機器やシステムを整備してもこれを使いこなすのは人です。普段から職員の誰もが円滑に使いこなせ、不審者を素早く発見して園の全職員に伝え、子どもの安全を確かなものにするのも人です。小中学校と異なり、幼稚園という特性から女性が多い環境ですので、不審者の侵入に備えた特別な防御体制が必要となります。

敬愛幼稚園の場合は、バスの運転手を除けば常時在園している男性は園長の他に1人しかいません。非常時は、先生方に非常事態を素早く伝え、確実に子どもたちを守る体制がとれるようにすること、警察への非常通報を落ち着いて確実に素早くできるように訓練しておくことです。基本的に男性2人で不審者に対応しますが、ナイフなどの危険物を所持していることを想定して身近にある椅子や物を必ず持って自身も怪我をしないように充分注意し、決して素手で対応しないようにします。私たちが負傷してしまったら子どもたちを守れないからです。園長の私は若いころから空手以外に拳正道（総合武道）4段ですので相手を制御する一通りのことは身につけていますが、高齢ですから気をつけながら他の職員とともに対応します。

ちなみに、自宅では、1階にはヌンチャク、2階には懐中電灯や木刀を常備しています。このように、普段からの訓練と連携はとても大切ですので、地震や火災、暴風雨などに備えた命を守る準備が大事です。1月3日には我が家から300mほど先の民家から未明に出火し、近所の民家4軒が焼け、出火場所の80代のご夫婦のうち、奥様が亡くなられました。私も火災の際に119番通報をしました。

(園長 杉山清志)